**道　徳　教　育　研　究　部**

部長　鈴木　茂（所沢・柳瀬中）

１　研究主題

「自立し、他者とともによりよく生きる力を育む道徳教育の充実」

２　研究の趣旨

　　急激に変化する社会にあって、青少年の規範意識や人間関係を形成する力が低下し、自他の生命に対する慈しみや有り難みを感じる生徒が少なくなっている。このことが生命軽視の軽はずみな言動につながり、いじめなどの社会的な問題となることもある。その解決のためには、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育との関連を図りながら、「特別の教科　道徳」において、計画的、発展的な指導や体験活動等を生かすなど、道徳的価値について自覚を深める授業の充実を図り、生徒の道徳性を養うことが必要である。

また、教育活動全体の取組を通じて、自己肯定感や自己有用感の高まりから、生徒一人一人の自尊感情を高めることにもつながるような指導の工夫も大切である。さらに、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実するとともに、現実の問題に対応できる資質・能力を育むために、問題に真正面から向き合い、自分自身のこととして多面的・多角的に考え、議論していく「考え、議論する」道徳科の授業を実践するなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携強化を図ることも重要である。

３　研究の視点

○物事を多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成

○自らを振り返って成長を実感し、課題や目標を見付けることができるような主体的に道徳性を育むための指導法の工夫

○道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

４　研究の計画

・協議題に基づき、地区ごとに地域の実態に応じた研究を推進する。

・全日本中学校長会研究協議会、及び関東甲信越地区中学校長会研究協議会に参加し、本県の道徳教育を一層推進する。

・全体協議会における提案を研究活動に生かす。

５　研究の組織

(1) 役員

部　長　　鈴木　　茂　（所沢・柳瀬中）

副部長　　二瓶　　亮　（鴻巣・吹上中）

副部長　　内田　隆一　（神川・神川中）

庶　務　　田川　順一　（越谷・南中）

会　計　　大野　光男　（川越・鯨井中）

記　録　　山根　　明　（草加・花栗中）

(2) 部員　３６名

南部　　部員 ９名　　西部 部員１３名

北・秩　部員 ５名　　東部 部員 ９名

６　研究活動

埼玉県中学校長会全体研究協議会

1. 期日　令和５年１月３１日（火）
2. 会場　運営本部：ほまれ会館　Web開催

　　　分科会：９つのブレイクアウトルーム

1. 内容（第４分科会　協議題）

「自立し、他者とともによりよく生きる力を育む道徳教育の充実」

テーマ：「よりよく生きようとする意思や能力を育てる道徳教育の充実」

提案者：田沼　良宣（熊谷・三尻中）

実践の概要

(1)授業における「道徳の見える化」

・Metamojiによる心のメーター活用

・話合い活動での「ホワイトボード」の活用

(2)実生活における「道徳の見える化」

・生徒会主体の「時・場・礼」の取組

・「朝の黒板」の取組

(3)人権教育推進の柱である道徳授業の充実

・指導の重点化

・「三尻　令和論語」の活用

(4)令和５年度に向けた検討

・ローテーション授業の実施

・「考え、議論する道徳」のさらなる充実

７　まとめと今後の課題

　　「特別の教科　道徳」全面実施から３年、校長のリーダシップの下、考え、議論する授業の実践、資料や評価方法の共有化、一人一台端末の効果的活用を推進する必要がある。今後もさらに研修の充実や教職員の共通理解を図り、教科としての道徳を定着させていきたい。